

LATINA

ラティーナ ラテン世界の音楽情報誌 **MUSICA PARA EL FUTURO**

昭和40年3月30日第三種郵便物認可 昭和60年4月1日発行(毎月1回1日発行)通巻374号 昭和60年2月19日国鉄首都特別扱承認雑誌第8098号

速報! '85リオのカーニバル、人々の情熱とエネルギー
1985 ABRIL

4

Elifas Andreote



CamiloSestoOficial

I N D I C E

表紙アーティスト／カミロ・セスト
表紙イラスト／Elifas Andreato

LATINA

No.374 ABRIL 1985



Camilo Sesto

ブラジル音楽永遠のミュージズ、ナラ・レオン 高場将美	4
第25回コスキン・folklore・フェスティバル 写真・レポート: 斉藤憲三	10
マナー・パワー・タウン、レゴス 文・写真: 白石顕二	14
カミロ・セストの多彩なステージに期待を寄せて 文: 中尾啓子	18
TOSHIの音楽紀行《バリ島》その2 文・写真・イラスト: 土取利行	22
ダイナミック・タンゴの仕掛人たち 文: 高場将美、写真: 菊地 昇	24
EVENTO／ホセ・バツソ楽団～藤沢嵐子～ミルフォード・グレイヴスetc.	28

VIA AEREA

ARGENTINA (Keizo Kaji) BRASIL (Hitoshi Miyazawa / Marco Aurélio Luz de Mello) MEXICO (Raúl Cervantes Ayala) PERU (Mario Ozaki) BOLIVIA (Toshy Fujimoto) CUBA (Revista BOHEMIA) NEW YORK (Kazuo Iwami) ESPAÑA (Masao Usaka) JAMAICA-LONDON (Riichi Fujikawa)	31
---	----

ESPACIO / FILHO	36
-----------------	----

速報!! リオのカーニバル'85 レポート: 青木 誠、写真: 浅田英了	39
旅の中の人間たち③カヌアが逃げる 写真・文: 高野 潤	48
ライモン インタビュー 文・写真: 井上憲一	50

INFORMACION

concert - live spot - radio - news - books - movie - etc.	55
MPB界最新ビデオ情報 中原 仁	63
タンゴ写真館 エドゥアルド・ピアノコの頭上に輝くタンゴの王冠 文: 高橋 敏、監修: 蟹江丈夫	64
キングストンのリズムに身を委ねて 文・写真: 江島孝導	66
folkloreの旅《ポリビアII》 浜田滋郎	68
加年松城至の「タンゴ歌謡万華鏡」 イラスト: 高井研一郎	72
LATINA AUDIO	74

ディスコ・ガイド 国内盤 / 輸入盤	75
オピニオン / 愛好会ニュース	88
筆者紹介 / 編集後記	90

ラティナ 1985年4月号(通巻374号)
昭和60年3月20日印刷 / 昭和60年4月1日発行
定価450円(送料70円)
発行●(有)中南米音楽 発行人●中西義郎
編集人●本田健治
〒150 東京都渋谷区恵比寿1-13-6 電話●(03)446-1225
印刷・製本●城南グラビヤ(株)

CamiloSestoOfficial

Camilo

カミロ・セストの多彩なステージに期待をこめて

文・中尾 啓子



ついに5月、スペインからカミロ・セストがやって来る。日本では昨年初めてレコードが発売されるまで長らく「知る人ぞ知る」の存在。輸入盤で愛聴していた方も少なくないようだが、新しいファンも増えてムードも盛り上がりつつある中で、いよいよ待望の初来日公演が実現するわけだ。

スペインのスーパースターといえば、かつて絶頂期のラファエルが何度か来日し、ちょうど2年前には御存知フリオ・イグレシアスの大旋風。そのせいで「ポスト・フリオ」の印象が強いが、むしろスター歌手としては3つ若いカミロの方が先輩。早くからスペインやヨーロッパ、中南米では「神聖なる怪物」の尊称で知られる。わけでもメキシコではフリオをしのぐ絶大な人気で、昨年フリオが数年ぶりに公演をする前には「果たしてサッカー場を満員にできるか？」との新聞記事を目にしたほど（結果は大成功だった）。カミロはアメリカでもロサンゼルスに着実に足場を築いている。いわば遅すぎた大物スターの登場なのだ。

カミロが昨年12月19日と20日、マドリッドのスカラ座で開いた久しぶりのスペイン公演の様子が、プールの白亜の豪邸、広い芝生の庭で愛犬たちとたわむれる彼の素顔などをテレビ番組で見た方も多いただろう。先日、あの自宅でくつろぐカミロと国際電話で話すことができた。ヨーロッパ各国へのテレビ出演や公演で多忙な日々を送っている彼にとって貴重な休日だったが、「時間はたっぷりあるから遠慮なく……。何語で話そうか？」英語がいいんだけど」「ほくはスペイン語がいいんだけど」と笑いながら気持ちよく応じてくれた。日本公演を控えての心境、音楽、家族、女性や愛について、ゆったりとした英語で約1時間。途中ですぐに歌い出す。ラテン・ホスピタリティーそのまま、陽気で気さく、じつに素直に本音を語る態度に彼の人柄の良さがうかがえ、とても好感が持てた。

カミロは83年暮れ非公式に来日したことが

ある。その時たたくさんの本を買って帰り、日本のことや日本語を勉強中と、ステージで出来るだけ多くの日本語を使って「コミュニケーションしたいため」「必要と感ずる」中国語でも何語でもトライするよ」と意欲的。日本では2枚目のアルバム「ロマンサー」の「愛に生きて」のタイトル曲を、スペイン語と日本語で歌うつもりだと披露してくれた。

「アコンバーニャメ、この愛を、

アコンバーニャメ、2人して

アコンバーニャメ、アコンバーニャメ、どこまでも……」

外国語に強く英、仏、イタリア語を話せるカミロだけに発音は正確。仕事仲間のカップルをヒントに74年最初に書いた曲だそうだが、彼はすべて自分の体験をもとに詞を書き、作曲するシンガー・ソングライター。カミロの歌は「多くの人生そのもの」と彼も言う。また「女性について歌うのは大好き。人生の良きパートナーだもの。この世で最も美しいふたつのことばはTE AMO（君を愛す）。

世界が核兵器を持ち、どこかで戦争がある現在こそ、最も必要なのが「愛」でしょう。大切なのは、その愛を感じ示して行くこと。ジ・ザスのように……」と。愛のよろこび、切なさ、友情、希望、挫折、裏切り、別れ、悲しみ、苦しさ——カミロの、そして私たちの人生のドラマを歌い続ける彼の信条だろう。

カミロの本名はカミロ・ブラネス。作曲家としては本名をクレジットしている。46年9月16日、バレンシア地方アリカンテのアルコイという町で生まれ育つ。東の地中海側でもぐつと南部。節回しにはアラブ風ムードが漂うが、すらりとした背が高いのは北方系、家族と話すのはバレンシア方言と、複雑なスペインの民族性を感じる。電気技師だった父と母、姉と2人の兄の6人家族。3年前に亡くなった父は、なんと9歳から働いていたという。現在は末っ子のカミロが経済的にも精神的にも一家の大黒柱。フリオと違って明らかに労働者階級の出身だが、カミロは自分の腕で一



CamiloSestoOficial



家を支えられるのを「誇りに思う」と語り、人生で大切なのは金でなく、愛や友情だと教えてくれた父を「偉大な人だ」と尊敬している。あえてからだを陽にやかないのも、^(金)ではない庶民の側の人間だとの姿勢のあらわれらしい。

10代で「ロス・ダイソン」というグループで歌い、テレビ出演をきっかけにプロ歌手を志してマドリッドに出たのが65年。やはりピートルズ大好き少年で、「ロス・ボティネス」ではリード・ボーカルを担当。68年兵役に従事、70年ソロ歌手としてレコード契約した。

72年4枚目のシングル「過ぎ去りし君」のナンバーワン・ヒットで人気歌手へのパスポートを手にしたが、彼を最初に認めたプロデューサーがファン・バルド。「偉大な歌手プロデューサー、クリエイターで良き友人。デビュー当時お世話になったことは一生忘れられない」という。同じ年、2作目のヒット曲「アモール、アモール」を作詞したルチア・ボセとはロマンスが噂された。日本にも紹介された歌手ミゲル・ボセの母親で夫は闘牛士。「自由で進歩的なボセ一家とは今も大の仲良し」とのことだが、かつての年上の人妻との恋を思わせる歌がある。日本での2枚目のLPに収録されている「トリアングロ・デ・アモール」(邦題は「愛の悪戯」より「恋のトライアングル」とした方がいいのに)。

「三角関係の歌。彼女には夫がいてボクは負け犬。でも心はボクのものだったから勝利者でもある。ずい分むかしの経験だけど……」と笑っていた。

75年11月から4ヶ月間にわたって公演したロック・オペラ「ジーザス・クライスト・スーパースター」に主演、一気に評価を高めたことはよく知られるところだが、じつは彼自身も権利を買ってプロデュースしたそうだ。「誰も成功するとは思わなかったが、ぼくは

見事にやったんだよ」とうれしそう。65年に出したスペイン語盤LPも大ヒット。「カムイセマネの園」は現在もステージで必ず歌うお気に入りのナンバーになっている。パワフルな熱唱で、こんなアルバムもぜひ日本で発売してほしいものだ。

ついでながら、日本ではオリジナル・アルバムが出ていないのが気にかかる。「君がどこにいても」は過去のヒット曲が多く、やはりサウンドが古い感じ。「ロマンス」この愛に生きては83年の「コン・ガナス」と、84年の「アマネセル84」から。いずれもバラード中心の選曲で、やや変化にとほしいさらいがある。たしかに美声で歌うロマンティックな曲に本領を発揮するが、ロック・グループ出身だけにダイナミックで男性的なボーカルも素晴らしい。若い頃はラテン歌手特有のゆたかな声量で歌い上げる傾向の曲が多いが、最近ではレゲエ調の「コンプリセ」(恋の共犯者)のような軽快なリズムの曲もこなし、はるかに多彩になっている。

やはりオリジナルのままで聴く方が、その時点でのカミロの音楽性や表現を正しく受けとめられるのではないか。このことは、さきごろFMラジオでカミロの来日特別番組を制作したとき、ゲスト出演してもらった永田文夫さんの数多いレコードを聴いて強く感じたことなのだ。カミロがプロデュースを手がけているスペインの女性歌手アンヘラ・カラスコやルシア・メンデスらのアルバムで、彼の編曲者、プロデューサーとしての一端をうかがうことができた。彼の初期のヒット曲「キエレス・セル・ミ・アマンテ」が永田氏訳で以前から日本人歌手に歌われていたことも初めて知った。とにかく18枚のアルバム全部がゴールド・ディスク、アルバムごとに数曲のヒット作があるから、まだまだ素晴らしい作品を耳にできるわけだ。現在レコーディング

CamiloSestoOfficial

あはこ

捜していた一枚が、ここでみつかります。
新宿・池袋と足が棒になる前に、高田馬場ムトウへ。

CD(コンパクトディスク)も発売されました!!

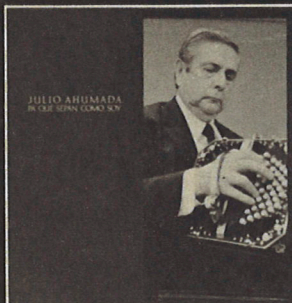


ホセ・パッソ楽団 ラ・クンバルシータ

●Victor VDP-1009(ビクター)
3月21日発売 ¥3,200

ホセ・パッソ楽団(演奏) ファン・カルロス・グラネリ(歌)

LP:VIP-28095/カセット:VCW-10092
各¥2,800



フリオ・アウマーダ/私の真実

●Polydor 25MM-0418(ポリドール) ¥2,500

フリオ・アウマーダ(リンドネオン、編曲、指揮) レオポルド・フェデリコ、ネストル・マルコーニ他 (bn) カルロス・ガルシア(指揮) キチヨ・ティアス(b) 他

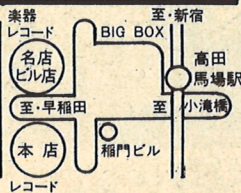
※予約、地方発送うけたまわります。

高田馬場駅前

ムトウ

〒160 東京都新宿区高田馬場2-17-4

本店(レコード)
03-209-1515代
名店ビル店(楽器・楽譜)
03-200-2713代
大丸東京店6F
03-212-8011代
大丸町田店9F
0427-25-1111代
八王子大丸7F
0426-26-1111代



中このことだが、新しいアルバムはぜひオリジナルで、その上でさかのぼって以前の作品も聴ければいいと思う。ステージでもロマンティックな曲に限らず、バック・ボーカルの女性とサンバを歌い踊ったり、エキサイティングな演出をこらしているようで、「ほくのすべてを表現したい」という日本公演では、レコードとは違ったライブの楽しさをたんのうさせてくれることだろう。

カミロ・セストはアメリカでも歌手としての活動以外に、プロデューサーとしても売れっ子で、ハープ・アルパートの奥さんラニ・ホールがラテン・マーケット向きに発表したスペイン語アルバム制作を依頼され、その中から彼の自作曲でラニとデュエットした「チエインド・ハート」がスペイン語圏やアメリカのラテン・チャートで第一位。最近のステージでは、しばしばラニと共演している。パリ・マニロウとの間にも話があったようだが、パリは別人と組んだ。「残念ながら良いできとは言えない。今度話があれば、もちろんOKするよ」と自信を見せる。

歌手としては83年の全米公演が大成功。ニューヨークのラジオ・シティ・ミュージック・ホールの同年度ベスト・パフォーマンス賞を獲得。「それほど多くの歌が欲しがっているか想像できますか? その賞をぼくがとったのは名誉なこと。今年もトライしたい」

カミロもアメリカ市場の制覇は「とてもむずかしい」と認識しているが、最初から世界のトップを自し、全米征服を念願していたフリオとは、ちよつと考え方のニュアンスが違っているようだ。外国人の音楽に閉鎖的だったアメリカで最近ラテン音楽に興味を持ち始めたのをよるこびながら、「むしろアメリカ人がラテン・フィーリングを必要としている」と断言する。ラニやバリーの他、シーナ・イーストンやアバもスペイン語アルバムを作り、英語圏について大きなラテン・マーケットを狙っている。ダイアナ・ロスがフリオと組んだ原因のひとつもそうだろうし、10代グループ、メヌードの躍進ぶりもラテン人気の盛り上がりを反映したものと思う。彼らに続いて、まだ日本で知られていないすぐれたラテン系の歌手やグループが登場してきてほしい。

カミロは「ことばは通じなくても音楽はユニバーサルなもの。歌やメロディー、フィーリングを通じて理解してもらえらると思う。ほくの魂、皮ふ、ハートで、心と心で日本のファンの方とコミュニケーションできるよう努力するつもりです」と決意を披露してくれた。日本での成功のためには「望まれることは何でもする」とまでいうカミロのコンサート、大きな期待が持てそうである。

camilo



CamiloSestoOfficial